アポロニウスの円

2 定点 **A**, **B** からの距離の比 **AP**: **BP**が一定 (ただし **AP** \Rightarrow **BP**) であるように点 **P**が動くとき その軌跡は円になる。これをアポロニウスの円という。

 $AP: BP=m: n \ (m \neq n)$ とし、線分 AB を m: n の比に内分する点を C、外分する点を D とするとき、線分 CD を直径とする円がアポロニウスの円である。

証明

$$c = \frac{na + mb}{m+n}$$
, $d = \frac{-na + mb}{m-n}$

AP: BP=
$$m:n$$
 から m^2 BP 2 = n^2 AP 2
$$m^2 \{(x-b)^2 + y^2\} = n^2 \{(x-a)^2 + y^2\}$$

$$(m^2-n^2)x^2+2(n^2a-m^2b)x-n^2a^2+m^2b^2+(m^2-n^2)y^2=0$$

 $m \Rightarrow n$ から

$$x^{2}-2\cdot\frac{-n^{2}a+m^{2}b}{m^{2}-n^{2}}x+\frac{-n^{2}a^{2}+m^{2}b^{2}}{m^{2}-n^{2}}+y^{2}=0$$
 ①

ここで
$$c+d=2\cdot \frac{-n^2a+m^2b}{m^2-n^2}$$
, $cd=\frac{-n^2a^2+m^2b^2}{m^2-n^2}$ であるから ① は

$$x^2-(c+d)x+cd+y^2=0$$
 から $(x-c)(x-d)+y^2=0$ ……②

② は線分 CD を直径とする円を表す。

(証明終)

P(x, v)

$$\overrightarrow{\mathrm{CP}} = (x-c, y), \overrightarrow{\mathrm{DP}} = (x-d, y)$$
 であるから ② は $\overrightarrow{\mathrm{CP}} \cdot \overrightarrow{\mathrm{DP}} = 0$

すなわち $\overrightarrow{CP} = \overrightarrow{0}$ または $\overrightarrow{DP} = \overrightarrow{0}$ または $\overrightarrow{CP} \perp \overrightarrow{DP}$ であるから,P は CD を直径とする円上にある。また ② は次のように変形できる。

$$\left(x - \frac{c+d}{2}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{c+d}{2}\right)^2 - cd$$
 \$\(\sqrt{x} - \frac{c+d}{2}\)^2 + $y^2 = \left(\frac{c-d}{2}\right)^2$

すなわち、CD の中点が中心、 $\frac{CD}{2}$ が半径である。